



初春に町の翁の
独りごと

柳橋散歩

平成 24 年 1 月 No.3



夕方にさると優雅に華やかにする。と言つても本才の街
ではない。江戸の情緒をその儘に粋な香りの境界線である

江戸水がしつとりと落ちつた家園を醸し出す

今日のお出先でり準備はどうか。三味や音日か聞かえませ

日お落る子樹には車座さんお番だ。長者殿を來せて

この東り料亭へ来る

この水から夜更けるまで時がとまる

江戸の遊戯も知る男と女の命の洗濯場だ

柳橋り畔から泉清寺。柳光寺。柳水。はやし

津久松。柳の木。小舟。深川。二葉鶴の家

曙。まがや。いふ。長代仲。十八。鈴の家。暗柳

客の料亭が軒を並らねていた

いこは。町そのもうが群。前ん繋。ぶら。い。せん。百人。豆
が集う境界線だつた

「こので倒れりや。この水がほんとり能ま(料)の倒れ」をんて
てや。ジギヤクを言つたもうだ

戦前り(筆)次吉屋(大軒)柳橋并舟街は昭和二十二年二月十九日

り空襲で焼失した。二月二十五日。三月十日と空襲の

跡より東京は焼土と化した。そして広島長崎と原爆

投下で八月十五日終戦を迎えた

戦後の混乱と餅より昭和三十三年頃から料亭の

復興建築が始まった



この石とこの柱と私が融れたことがある。せうとう
 五十七八年と前へなるだうう。懐しく思ふ心と言ひ知れ
 れぬ思ひが交又する。澤山う科年と舞合はあつたが
 懐きあつた舞合はいふ垣だつた。又訪れる人とVIP合
 人見ばかり政界 財界はともども。三島由紀夫も来た
 ことがあるた。振り返つても遠い昔

平成二十四年壬辰の年。この日から新しい柳橋を創り
 出せう。澤政知新の言葉も忘れず飛龍が如く、さら
 なる柳橋を

